

令和4年度 学校評価における自己評価について

認定こども園 鳥取第三幼稚園

1、学校の教育・保育目標

～風と砂と仲良し三園っ子～をキャッチフレーズに、「豊かな感性をもち、主体的に活動する子どもを育てる」を教育・保育目標とし、幼児期にふさわしい環境のもとで、多様な体験を通して子どもの主体的な活動を促し、一人一人の特性に応じた教育・保育をめざす。また、心身ともに健康で、調和のとれた豊かな人間性をもった子どもを育てる。

【めざす子ども像】

- 1、自分で考え、主体的に行動する子ども
- 2、健やかな心と身体をもち、たくましく活動する子ども
- 3、友達の気持ちを思い、誰とでも仲良く遊ぶ子ども
- 4、素直に感謝する心をもち、感性豊かな子ども
- 5、豊かな生活経験の中から、物事を知的に理解し判断できる子ども

2、本年度に定めた重点に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校教育の具体的な目標や計画

本年度は、『こころ からだ はずませ 出かけよう』～身近な自然環境を生かし、幼児の体力向上を考える～を研究テーマにあげ、地域資源の十分な活用方法を見出し、子どもがその環境を通して主体的に関わることができるような保育環境を整え、感じる力や考える力を育て、体力向上についても考える。

昨年（令和3年）度末の保護者アンケートより、園舎改築工事に伴い園庭や遊戯室で遊ぶことが少なくなり、子どもの体力の低下について心配であるという意見をもとに、地域資源を生かしながら体力向上について研究を進めた。

研究の視点として、まずは、研究テーマの捉え方を職員が共通理解し、育てたい子ども像を明確にする。そして、子ども達が主体的に行動し、身近な人や物、自然物への興味関心を深めていくための援助や環境について探る。自然の中で遊びを充実させ楽しみながら進んで運動しようとする意欲を育て、子どもの健やかな成長につなげる。

園周辺の環境や地域資源に目を向け、園外保育に出かけたり、栽培活動を通して生長を感じたりしながら、五感を刺激してわくわくドキドキ心動かされる体験を味わうことができるように計画する。特に鳥取砂丘へは四季を通して出かけ、様々な発見を楽しむことができるようにする。また、鳥取砂丘について職員の知識を高めるため、専門家を招いて職員研修・現地研修を行い、研究を深め保育につなげる。

新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、異年齢の友達や地域の方、近隣の小学生、中学生、高校生等いろいろな人と人との関わる機会を設ける。また、中ノ郷中学校区の小学校や保育園とアプローチ、接続カリキュラムの見直しを行い、年長組の子ども達が小学校にスムーズに移行できるようにする。

評価項目	結果	理由
<p>(1) 本年度の研究テーマ 「こころ からだ はずませ出かけよう」に ついての取り組み</p>	A	<p>今年度は、職員が鳥取砂丘についての知識を高めることから取り組んだ。専門家の方を招き、園内研修を行い、現地研修は、2回（昼間と夜）に行い、鳥取砂丘の様々な姿を実際に見て触れて知ることができた。保育教諭が探求心をもって自然に関わることで、子ども達が様々な自然物に目を向けて発見や驚き、不思議さを楽しみ、自ら遊びを考え楽しもうとする子どもの姿につながった。</p> <p>園周辺の環境（鳥取砂丘等）に四季を通じて出かけ、季節ごとの自然の様子を五感で感じることができた。ともに感動し、ともに発見を喜ぶ時、たくさんの言葉と豊かな感性の育みへとつながった。近隣の公園に徒歩で出かけたり、園バスを利用して鳥取砂丘や公園に出かけて歩く・走る・そりすべりをするなど体力向上へもつながった。</p> <p>また、鳥取城北高校のグラウンドを利用してサッカー教室を行い、身体を動かして遊ぶ活動を取り入れるようにした。</p> <p>また、園外での活動だけではなく、園内でボールつきや縄跳び跳び箱、鉄棒など積極的に活動に取り入れ、体力向上につながった。</p>
<p>(2) 身近な自然を生かした 保育</p>	A	<p>園舎改築工事に伴い、園庭に畑はなく、さつまいも栽培は、近隣の畑を借用して行った。水やりに出かけたり草取りに出かけたりしながら生長を近くで見て収穫を迎えることができた。</p> <p>鳥取砂丘近くでのらっきょう堀り体験では、実際にらっきょうを堀り、掘りたてのらっきょうを持ち帰りみんなでらっきょう漬けをして食べることができた。野菜（イチゴ・ミニトマト・きゅうり・ピーマン）は、プランターで栽培した。水やり、葉が茂る様子など生長を見ることにより、収穫の喜びが一層高まった。</p>

<p>(3) 人との関わりの充実</p>	<p>A</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮して、小学生や中学生、高齢者施設の方と直接会っての交流はできなかった。しかし、地域の中学生は、子ども達に手作り絵本をプレゼントしてくれた。新園舎の「絵本のへや」には、中学生の手作り絵本コーナーを設け、子ども達に人気である。対面での交流はできなかったが、心と心のつながりを感じた。</p> <p>高校生【鳥取城北高校の保育コース、鳥取県立養護学校の生徒（車椅子利用、卒園生）】と職場体験体験（保育）実習を通して交流することができた。新園舎には、ハートフルスペースの駐車場、車いす対応可能な田目トイレ、廊下は広く園内はバリアフリーとなっており、エレベーターを完備している。そのため、車いす利用の高校生も安心して過ごせる環境の中で実習を行うことができた。車椅子を初めて見る園児もいたが、関わりの中で相手のことを考えて声をかけて行動するなど知り得たものは大きいと感じた。</p> <p>異年齢の活動では、お店屋さんやゲームコーナーを作り、他学年を招待して一緒に遊ぶ活動が盛り上がった。</p> <p>地域の方から、秋に花の苗をたくさんいただきみんなで植えた。新園舎で迎える令和4年度の初めての卒園式は、色とりどりの花で飾ることができた。</p> <p>また、地域の絵本の読み聞かせボランティアの方に来園していただき絵本などを月に1回読んでもらった。3月に年長児は、一人一人に手作りミニ絵本をいただき、とても喜んだ。地域の方に見守られながら過ごせることをとてもうれしく感じた。</p>
<p>(4) 幼小連携の充実</p>	<p>B</p>	<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮して、地域の小学生（1年生）との交流はできなかった。しかし、接続プログラムであるアプローチ・スタートカリキュラムでは、現在の子どもの姿に合わせた見直し（カリキュラムマネジメント）を行い保育園・認定こども園・小学校が1つの方向に向かって、取り組むことができた。</p> <p>また、地域の保育園の年長担任の意見交換を行い、保育について情報交換をし、就学に向けて同じ方向で保育を進めていくことができた。</p>

(5) 園舎改築に伴う安全面に留意した保育	A	<p>本格的に園舎改築（第2期工事）が始まり、4月から12月上旬まで工事車両の出入り等があり、園庭や遊戯室を使うことができなかつた。工事関係者と連絡を密にとり、安全面に留意して保育を行った。</p> <p>子ども達は、普段間近で見ることのない工事車両を見ることができてとても喜んでいた。令和4年12月に全施設が完成した。安全面に配慮し、子ども達を温かく見守り改築工事に携わってくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいである。</p>
-----------------------	---	---

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>今年度は『こころ からだ はずませ でかけよう』～身近な自然環境を生かし、幼児の体力向上を考える～を研究テーマとして研究を行った。</p> <p>鳥取砂丘について職員の知識を高めるため、専門家の方を招き現地研修を行ったことは、子ども達と様々な発見を楽しみ、保育につなげることができた。また、地域を知る・関わる・楽しむ・感動することは『鳥取』への興味関心を高め、地域を大切にふるさとキャリア教育にもつながる活動となった。</p> <p>幼小連携については、対面での交流はできなかったが、今年度も近隣の小学校2校、保育園・認定こども園5園合同でアプローチカリキュラムの見直しを行った。意見を出し合いカリキュラムマネジメントをすることは、園から小学校への移行がより円滑に行うことにつながると考える。今ある環境の中で、異年齢・中学生・高校生との交流ができたことは、とても有意義であった。</p> <p>4月に園舎改築第1期工事が完了し、子ども達は新しい保育室で保育を行うことができた。12月には、第2期工事の遊戯室棟も完成。子ども達は、新しい園舎で笑顔いっぱい過ごすことができた。これからも今ある環境の中で、園児が安全にえがおで過ごし、そして保護者の方に安心して送り出していただけるような園でありたいと思う。</p>

● (3, 4) の評価結果

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園の環境を生かした保育を考 える	令和5年4月より、生後7カ月から就学前の子ども達を対象とした『幼保連携型認定こども園』へ移行する。異年齢の関わりを大切にし、新園舎・園庭・屋上園庭を利用した保育の充実を図る。
園周辺の環境を生かした保育 の充実を図る	自然に恵まれた環境を生かし、四季を通して、園外に出かけ、友達と一緒に活動する楽しさを味わい、五感を刺激する活動を行う中で主体的に活動する子どもの姿を大切にする。
規範意識の芽生えを育む取り 組み	話を聞く姿勢、態度、あいさつなど規範意識を高めるよう取り組んでいきたい。 また、交通ルールや災害時の対応などについて知り守ること等、日常生活で大切なことをしらせていくようにする。
人との関わりを育む	コロナ禍でなかなか取り組むことができなかった近隣の小学生・中学生・地域の方等との交流を行う。様々な人のかかわりの中で優しさやいたわり、そして役立ち感など育んでいきたい。